

1 計画全般・CSWについて			(CSW：コミュニティソーシャルワーカー)
年度	開催回	内 容	
H28	第2回 (H28.11.24)	地域福祉を進める専門職を育て配置していくということを計画化していく必要があるのではないか。	
		いわゆるコミュニティソーシャルワーカーと言われるような専門職を計画に位置付け、公助の取組みとして力を入れて配置してほしい。	
	第3回 (H29.2.10)	生活課題の発見からとりあえずの支援、支え合い、行政サービスへのつながりと地域住民との支え合いの一連の解決のプロセスとしての福祉総合相談をどう作っていくか、第5期の計画には盛り込まなければならない。	
		地域住民と伴走してくれるコミュニティソーシャルワーカーを配置させ、地域福祉の向上に向けた後押しを進めていただきたい。	
		相談体制と解決力の強化をみんなで一緒になって進めていくということを主体的に進めていただきたい。	
H29	第1回 (H29.7.27)	専門職だけが問題を発見するのではなくて、身近な人が発見する、その身近な人が発見することを促進させるのがコミュニティソーシャルワークという専門職の機能である。専門職が地域にずっと出向いて発見するのではなく、地域住民と協力しながら発見していく、地域の課題を創っていくことが重要となる。	
		地域福祉のソーシャルワーカーの圏域は中学校区と言われており、この基準からすると千葉市は圧倒的に少ない。	
		コミュニティソーシャルワーカーがいないと困るということを地域住民が行政に言う力をつくらないと本当にコミュニティソーシャルワーカーが必要だという政策に繋がらない。	
		コミュニティソーシャルワーカーは自ら考え検討し、住民と行政の間に立ち、それぞれのケースから学んでいく力をつけるような活動・研修スタイルを確立しなければならず、研修の予算を組むなど強制的に研鑽させる必要がある。	
	第3回 (H30.3.29)	住民の発見と気づきを大切にする計画。発見と気づきを住民同士で、あるいは専門職や他機関がどのように解決まで繋げていくのか、専門職、住民、行政の役割がミックスされた地域福祉社会をつくるというのが次期計画の最重要な部分。「発見と気づきのシステム」を総合相談体制という仕組みの中で作っていくことが地域福祉を進めるためには必要である。	
		区より小さい地域での取組みについて、地域福祉活動計画も意識しつつ、一つ一つ議論して関わっていく、それが次期計画の目標となる。	
		いきなり仕組みを構築するのではなく、目の前の資源がない課題についてもまずは支援し、地域の住民が「ちょっと変わったな」と実感させていくためにも、社会福祉協議会の力量を上げていく必要がある。	

2 人材・担い手について		
年度	開催回	内 容
H28	第2回 (H28.11.24)	社協地区部会は経常的にマンパワーが必要。人手不足で、新しいことをやろうとしても、なかなか人員の充当ができない。
	第3回 (H29.2.10)	町内自治会や社協地区部会などの地縁型組織に所属していない方に心を寄せていく必要がある。福祉の活動にまだ通じてない市民活動団体、いろいろな市民が地域福祉の担い手であることを都市である千葉市は考えていく必要がある。
H29	第1回 (H29.7.27)	各区に共通している課題が「担い手不足」。住民の参加をどのように進めるか、町内自治会の関係者のみではなくて、福祉をテーマにかかわる人をどうやって広げていくかは全国的な課題であり、地道につくっていくものでもある。地域づくりは10年かかると言われている。
		アンケートにおいて、「きっかけがあれば地域福祉活動に参加してみたい」と思っている人がかなり多いことがわかった。新しい考え方に基づき、これらの人をどう拾いあげていくのか、またどうきっかけ作りをしていくのが重要である。
	第3回 (H30.3.29)	町内自治会や社協地区部会以外で活動しているNPOや団体等が存在しており、これらの団体と地域福祉計画との関わり方の検討が必要。
		計画を絵に描いた餅にしないような仕組みを考えていかなければいけない。必要な箇所にはしっかり人を配置することを強調しないと、地域福祉が育たない。 市内の社会福祉法人も施設内の仕事だけでなく、様々な人材を活用し、地域の公益的な取組みを進めていくことを一緒にこの計画の中で考えていくことが重要である。

3 評価について		
年度	開催回	内 容
H28	第1回 (H28.7.27)	評価とは3つの側面がある。構造の評価（構造的に上手く機能しているかを判断するストラクチャー評価）、達成率や効果の評価（アウトカム）、達成や効果までの過程（プロセス）の評価である。それぞれメリットとデメリットがあり、地域福祉計画における評価をどのようにするか、質の評価というものをどうするか。
H29	第1回 (H29.7.27)	今回の計画の策定はマイナーチェンジということで評価手法については大きく手を加えないが、今後の課題としては、取組みを指摘することよりも、促進し、勇気づけるようなものにする必要がある。